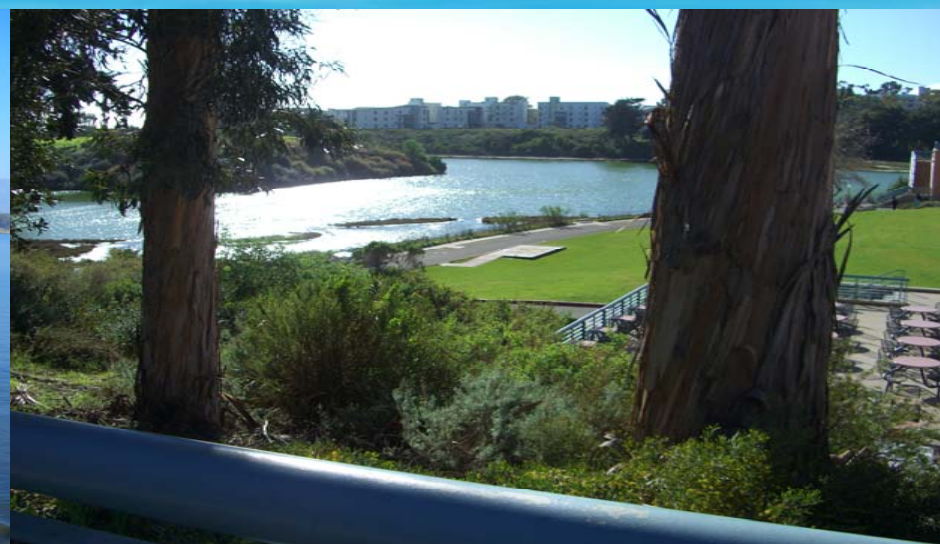


University of California, Santa Barbara



2007年

研修参加者の声



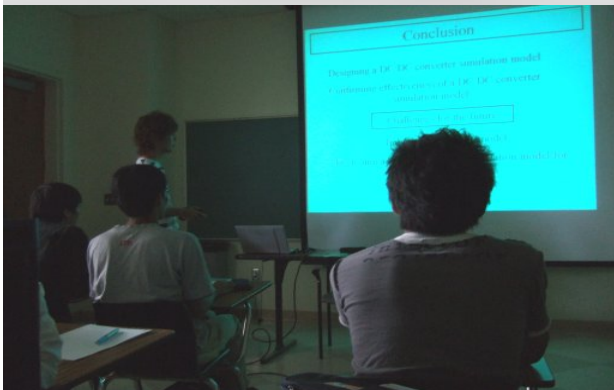
研修に参加したきっかけは？

- これからの研究活動で必要になる国際学会に照準を合わせた英語でのプレゼンテーション能力・チームでの研究において英語をコミュニケーションの基盤言語としての語学能力の習得をするため。
- シリコンバレー研修に参加し、米国で長期にわたり働かれている方と対話をし、その話を参考にして海外で働くことも視野に入れてこれからの就職活動・キャリアデザイン・将来設計をするために、研修に参加した。
- 英語という言葉習得するにあたりバックボーンである文化に触れること、実際にその文化の中で育った人間と触れ合うことを目的としました。



研修の内容について

- 英語での5分間の質疑応答含む15分間のプレゼンテーション、1000～1500字での論文提出を最終目標として、必要とされるライティング、スピーキング、リスニング能力の向上プログラムに取り組んだ。また、石油プラント・環境工学科・海洋工学科等のフィールドトリップ、中村修二先生や他の方々の特別講義を通して自分の専攻外の知識を広げる活動に取り組んだ。
- 今回の夏期研修では、参加者全員が大阪大学生ということもあり、高度な内容を学習することができるという期待がありました。そして実際に、英語でプレゼンテーションを行うこと最終目的とした非常によく計画された授業を受けることができました。授業だけでなく、UCSBのProfessorsによる特別講義やField Tripsなど、普通ではできない体験を大阪大学のプログラムだからこそ体験することができ、とてもよい経験となりました。



研修の内容について

- 研修プログラムの内容は多岐に渡っていました。大学の授業では英会話(発音練習なども含む)、ディスカッション(いくつかの議題について議論)、速読(文書を10分程度で要約し、説明する)、プレゼンテーションの練習(サイエンスニュースのサマリー、紹介)を行いました。また、フィールドトリップと題して、いろいろな施設を見学しました。
- 研修ではカリフォルニア大学にてネイティブの先生から工学英語を学んだ。理系論文などを読み要約したり、その内容について議論したりなどをし、生きた英語を学ぶことができた。単なる英会話や英語ではなく直接今後の研究に生かせるような英語を学んだ。研修最終目標として卒業論文を英語に訳し、英語でのプレゼンテーションを行った。教室での授業のみではなく、Field Tripとして大学内の研究施設の見学や教授との対談といった機会もあった。



研修の内容について

- カリフォルニア大学サンタバーバラ校での生活は想像していた以上にexcitingなものでした。日本とは違い、広大で緑豊かなキャンパスに通う様々な国から来た学生を目にしました。授業は語学のプロによる英語のみのクラスであり、とても刺激的で楽しいものでした。私はまさに典型的日本人といったところで、最初は簡単なことを英語で話すのにも緊張しうまくしゃべることができませんでした。先生方のよく準備された授業を通し、少しずつ英語での会話に慣れることが出来ました。またプログラム中には理工学系の学生にとって興味深いテーマを扱っている施設や研究所への訪問、ゲストスピーカーの講演が何度かあり、培った英語能力を試される良い機会となりました。



研修の成果



- これまで海外に英語で論文を発表することなど考えたこともありませんでしたが、学んだことを活かすために執筆して発表してみようかという意欲が生まれました。また、将来的に国際的な仕事に関わりたいと思うようになったため、これから始まる就職活動においてもグローバルな企業に目を向けて活動していこうと考えています。
- 米国人気質を知り、日本人気質を知ることが出来ました。
- 研修を終えて、英語学習に対するモチベーションがあがり、国際交流に関しても目が向くようになった。



研修の成果

- アメリカでの、自分で思っていることをはっきりと伝えないと何も改善されないという状況を通して、コミュニケーションにおいていい意味で度胸がつき、人と堂々と話すことができるようになったと思います。今後も機会があれば積極的に海外に出かけ、人と話したり、ものを見たりすることでさらに国際感覚を磨いていきたいと思います。
- 学校では、先生が分かりやすくゆっくりはっきりしゃべってくれたので、その多くを理解することが出来たと思う、また、そのスピードも徐々に早まっていったことで、最終的にはかなりリスニング能力が鍛えられた。ライティングに関しても、ノウハウを色々教えてくださったので、今後の研究活動における英語の扱いについて前向きな気持ちを持てるようになった。

研修の成果

- 今後は、国際学会に参加する場合や論文を投稿する場合において、論文執筆やプレゼンテーションにこの研修の成果を生かしたいと考えている。また、ホームステイ等を通して自身の英語力の乏しさを再確認し、今後はリーディング、リスニングに加えてスピーキング能力の向上に努め、就職したときに国際化していく社会に通用するような英語力を身につけていきたいと考えております。
- 朝から夕方まで英語のみの授業で英語力を高め、Conversation Partnerや現地で知り合った方達との会話を通じて異文化理解を深めることができました。また、UCSBの教授方と言葉を交わす機会や、普通では観ることができないような場所を見学することができ広く見識を深めることができました。

研修の成果



- 英語力の面では、日常生活に必要な会話能力が向上したと思います。重要な単語の拾い読み、速読の大切さ、プレゼンテーションの手法（注意するポイントなど）についても学ぶことができました。さらに、論文を書く際に前置詞、熟語についても一つ一つ丁寧に考えるようになりました。日常生活の面では、ホームステイを通して、アメリカ文化だけではなく、日本文化についても考え、両方の違いを再確認することができました。物怖じせず人に話しかけ、問題を解決するといったコミュニケーション能力も備わったと思います。
- たった1ヶ月という短い期間であったが、アメリカでの生活や文化、今後研究者として活躍していく上で英語がコミュニケーションツールとして重要な役割を果たすことを知ることが出来たと思う。間違いを恐れずに英語を話す度胸がついたのも大きな収穫といえる。今の自分の英語力としては、細かいニュアンスまでを伝えることが出来ず、研修期間中何度も歯がゆい思いをした。



今後は、より多くの表現を学び、また学術的な表現を知ること、日常生活の上でも研究者としても、もっと自分にとって「使える」英語にしていきたい。

研修の成果

- この研修は、自分にとって本当にいい経験となりました。英語を話すことに抵抗がなくなったし、聞き取りも以前より向上しました。また、アメリカの文化にふれ、いいところも悪いところもありましたが、日本との相違の発見をできました。そして、世界に目を向けるきっかけになりました。これからも、多くの世界の人たちとコミュニケーションをとり、様々な文化に触れたいと思います。この経験を生かして、将来は、世界で活躍できるような研究者になりたいです。



研修の成果

- 英語という文化に触れ何事も主張する必要があること、また主張するためには普段からいろいろなものごとに対して自分なりの考えを持っていこうと思いました。
- 今回、英語でプレゼンテーションをした経験・論文を書いた経験はとても貴重なものであったと思います。次回、国際学会での論文発表・プレゼンテーションの際に、よりよいものをつくりあげる糧としたいと思います。
- 普段の研究室にこもっての研究活動と違い、さまざまな分野に視野を広げること、さまざまな人種や
- 宗教、文化を持った人間と触れ合うこと
- ができ、人としての成長を得ることが
- できたと思います。



研修の成果

- 研修中には自分の英語力に苛立ちを感じる場面も少なくありませんでした。逆にそのことがもっと英語を勉強したいという思いにつながっています。また英語を学習する上でともに切磋琢磨できる友人ができたことも今回の研修で得た大きな成果の一つです。今後高い目標を持っている彼らとのつながりも自分の将来に良い影響を与えるものと思います。
- このプログラムの目的であるプレゼンテーションのスキルの向上だけでなく、さまざまな人達と英語で交渉したりすることで、実践的な英会話や交渉の仕方を学びました。また日本人を含めさまざまな人達と話すことで、いろいろな考え方や文化を知ることがいい経験になりました。

研修の成果

- 日本には感じる事の出来ない生のアメリカの文化を感じ取れた。また、その文化の中でいろんな感覚を持つ人がいて、アメリカ人は言わないと何も汲み取ってくれないことを知った。『日本人の心』というものを持つアメリカ人は非常に少なかった。これも文化の違いによるものだと思う。1つの技術は無限の可能性があるということを、講演をしてくれた先生方が教えてくれた。『せっかく実験ができる環境があるのだから、その中で精一杯自分の研究を行っていこう』という気にさせてくれた。この感覚を身に付けたのは非常に大きなことだと感じている。海外研修によって自分の生活全般に関して『最大の動機付け』を行うことができた。

研修の成果

- 英語学習に対する考え方も変化しました。今までは、英語は、論文を書く手段であり、ほかの数学などと変わらない勉強の科目であるという認識でした。しかし、留学して、英語で生活している人たちを目の当たりにし、英語が上手に話せないため、伝えたいニュアンスが伝わらなかったり、コミュニケーションがとれなかったり、と悔しい思いをしました。英語はコミュニケーションをとるための手段であり、ただの勉強ではないと感じました。英語能力を向上させて、出会った人と、もっと親しくなりたいと心から思いました。この気持ちを忘れずに、日本に帰ったこれからも、英語の勉強にはげみたいと思います。

研修の成果



- 特に、環境問題についてアメリカ人だけではなく、台湾やタイから来た留学生の人とも話す機会があったのですが、それぞれの人は皆自国の状況について非常によく知っており、またそれについて自分はどう思うのか、我々はいかに行動すべきか、などについて多くの意見を持っていました。驚いたのは、私達日本人と同じくらい日本についても知っている人がいたことです。これには驚くと共に時には自分の国のことをあまりよく知らない自分達のことを少し恥ずかしくも思いました。自国のことをよく知り、よく理解しておくことが相手の国の理解にもつながるのだということを実感した瞬間でした。

後輩へのアドバイス

メッセージ: ☆就職活動に有利☆ 絶対、参加すべき理由:間違いの無いコミュニケーション能力の向上。(英語はもちろん日本語も!)

具体例:

1. ライティング力 → キスが身に付く。そうです、アメリカはハグとキスの国です! 残念、違います。**Keep it simple, stupid!** (愚直なまでにシンプルに、わかりやすく!) この英語論文執筆時の肝を体得できます。
2. プレゼンテーション力 → プレップの大切さを知る。…。準備(pre)の大切さ? うん、惜しいけど違います。**Point → Reason → Example → Point!** (トピックの要となる点 → 理由 → 例示 → 再度、要点!)UCSBのドクター(Ph.D.)、講師、教授はみんなこの話し方をします。1カ月で、自然にあなたもロジカルシンキングマスター!
3. アクティブリスニング&スピーキング力 → 積極性、折れない心の再認識。
たいていの方は、英語ができないから留学を希望されると思います。実際、僕もTOEIC_550点で参加しました。ので、当然、アメリカ人が何を言ってるのかなんて全くわかりませんでした。そこで、大切なのは積極的に相手の話を訊くこと。そして、意思疎通できなくても諦めずに話し続けることでした。英語には、**Put yourself into their shoes!** という言葉がありますが、まさに「相手の靴に足を入れて(相手の立場になってみて)、同じ目線・立場に立って話を聴くこと」が重要です。だって、聞き流してたら何もわからないから。事実、このコミュニケーションの取り方はMBAで教えられている交渉術と全く同じものです。まとめると、就職活動、研究活動、社会人として働くうえでの総合的なコミュニケーション能力が向上します!! **Take it easy!!**

We really had a great time in Santa Barbara!!



You can make your goals a reality. Now is the time!!